

「災害時シミュレーション」(45～50分) 対象/小学生用(4-6年)・中学生用・高校生用

1. プログラムの趣旨

災害を想定したシミュレーション(模擬的な体験)を通して、自分のこととして捉えることで、想像力、考える力を養う。

2. ねらい

避難を伴う津波災害、洪水等において、避難する際に、持っていくモノは、人・家族によって異なり、事前に準備することが大切である。そして、準備ができていない場合は、モノを持っていくことよりも、いのちを守ることを最優先に、避難することが重要であることを学ばせたい。

3. 展開

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (5分)	(Power Pointにて進める) ①沈黙の時間(190秒) (目を閉じ、私語はしない)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に机を寄せる。 ・沈黙している時間を使って、シミュレーションに必要なアイテム(スーツケース、所持品のイラスト)が入った封筒を、グループ毎に1セットを配付する。
展開 (25～30分)	(Power Pointにて進める) ②避難に必要なモノを考える。 ③選んだモノについて話し合う。 生きるために必要なモノを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・想定場所や時刻等の状況は、個別に設定する。 ・グループ毎で活動する。 ・活動時間は190秒とし、活動中に、「時間がないよ!」「急いで!」などの声かけによって緊迫した状況を与えることができる。 <p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイテムが用意できない場合は、選ぶ個数(6個ほど)を決めて展開することも可能。 ・なぜこのモノを選んだか、なぜこのモノを選ばなかったかを発表する。(プリント、模造紙、ふせん紙などを使って考えをまとめることも可能)
まとめ (15分)	④まとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・沈黙の時間を発表させる。 ・沈黙の時間と活動の時間は、同じ190秒であったこと、時間の感覚は、その時の状況によっても異なって感じることを伝える。 ・東日本大震災の福島県いわき市小名浜では約190秒、地震の揺れが観測されたことを伝える。(震度6弱が観測され、震度4以上の揺れが約190秒続いた) ・人、家族によって、備えておくべきモノは違うことから、事前の準備と、事前に家族と相談しておくことが必要であることを伝える。 ・モノを持っていく準備ができていなければ、自分のいのちを守る(避難する)ことが、最も優先されることを伝える。 <p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVDのA-15「命を守るための備え」(備蓄編)を視聴させてもよい。 ・小学生用(4-6年)、中学生用・高校生用の「ワークシート7」を併せて活用してもよい。

※本プログラムのPowerPointデータ、スーツケース・所持品のイラストは付属CD-Rに収録されています。